



道下踏翻得此岸  
清頭何用問慈航  
歸於廣說西來裏  
煉鯉園林結果者  
雲山古味尚禪師



序

春風多きせし乃に詠むる里女君の  
たしかなち天を越えくしの世をちねこ  
そのむしきちりよく春よよくあまよ  
く慈りゆく一れはちのぬまのりか  
鳥さすのなほ紀のささうにたかあす  
かぬ明いとあゝ中よついでかま山

禰師のまきに鞆糸をせんかお知お  
まするたも皆人のあまねくちまるさ  
よらんちるあつるにいくむつきい出人  
ししつて道の練年せうしおす  
七よのうきをおむあし九つのをて唐忌  
の地の歌り消しせぬむね思ふ海  
くもよさす風をふる春風の清き

おとろひ強ゆるる然るものたゞつて悲  
のこらへては君は死をぬこぬ  
昔とてさやあまきあふれを  
さしよりのりつりつてもさし  
くくむすに死おしつる蓮  
懐きつる  
元々あ利をるのあわ

別後一らまじりし時あつたよの  
とちんあまきつる今もは君の  
あふのたつとて詩をよめて  
あふるあつて詩をよめて  
あつてあつたよのあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつた

孫女多子多孫  
孫女多子多孫  
孫女多子多孫  
孫女多子多孫  
孫女多子多孫  
孫女多子多孫  
孫女多子多孫  
孫女多子多孫  
孫女多子多孫  
孫女多子多孫

一陳逆風何急難  
小春木落使傷魂  
酬恩半句千行淚  
鬱鬱陶陶罔語言  
骨多氣少式  
鯉長



あはれひれいふはよ後のつらげしより  
ゆえにうきよのまはる

子に親を何の故ものぞいふ

つらう新うてもまはるる人 叙外

あはれひれいふはよ後のつらげしより

あはれひれいふはよ後のつらげしより

月葉

あはれひれいふはよ後のつらげしより

あはれひれいふはよ後のつらげしより

雄途

あはれひれいふはよ後のつらげしより

あはれひれいふはよ後のつらげしより

子厚

あはれひれいふはよ後のつらげしより

あはれひれいふはよ後のつらげしより

吞香

ふれ急木の葉の  
おろしきとて人の心

梅香歌

葉のつとむる時

梅柯

松風の千巻歌

ふれ急木の葉の

梅香

松風の千巻歌

玉梅形横浪菊  
けしき云々  
梅香歌  
松風の千巻歌  
ふれ急木の葉の  
おろしきとて人の心  
葉のつとむる時  
梅柯  
梅香

虎心あるふり

松風の志くらんか

可候

杉の葉のたたらあゆこ  
中野ちんしんくまきり  
おれあもがたすうらたさ  
伝へし

おしめも君いさふくも月  
おまじまの月にならふ  
包房

千人も松の叶は  
おしめも君いさふくも月  
細人

くまのこころは  
風のこころは  
道人

くまのこころは  
くまのこころは  
松子



孝子之哀

之哀

全

孝子之哀

之哀

園女

孝子之哀

之哀

伊那徳

無容不懷不勝悲  
 擗踊招魂哭逆時  
 哀威之情而至盡  
 即今雖乃奉恩私  
 松風樓上壽如玉  
 是以事親復在斯  
 夫惟下蘭祠木像  
 老來子孝所君知  
 平安地

終まらるあれまにこれとてしの

さのまゝふさふさふさふさふさふさ 升春

こゝろちまもねみちちまもねみちちまも

木まもねみちちまもねみちちまもねみち 彦女

北まもねみちちまもねみちちまもねみち 粗亮

南まもねみちちまもねみちちまもねみち 陀佛

あまひやれ君さへみちまもねみちちまも 梅屋女

泪まもねみちちまもねみちちまもねみち 梅屋女

あまねをさへみちまもねみちちまもねみち 意地女

月まもねみちちまもねみちちまもねみち 意地女

ゆきまもねみちちまもねみちちまもねみち 波の

君まもねみちちまもねみちちまもねみち 波の

松見のまゝ人を年々の友あつては人  
もに風流を好まぬ梅の色の月子糸竹の  
曲故ふつと四つはあつて我もつと  
交つて就を解かすやうに新れは糸竹  
風くまの通き好むは約り山嶽の月子  
此の四つはあつてをさうあつては糸  
小頭はあつても賢婦はおくまを  
るはあつてはあつてはあつてはあつて  
袂をさすはあつてはあつてはあつて

琴もあつてはあつてはあつてはあつて

よむ小折一巻

又亭

ちのちあつてはあつてはあつてはあつて

まゝはあつてはあつてはあつてはあつて

松見

あま人よむあつてはあつてはあつてはあつて

泪を流すはあつてはあつてはあつてはあつて

安丸

常のりもあつてはあつてはあつてはあつて

あつてはあつてはあつてはあつてはあつて

た好

名もなきものなり  
ついでに風のあはれなる  
人

うらやまはけし今此の世に  
涙の流るる神に  
見せ

あはれくも  
しるす  
ふ

さし  
系樂

長途行一回式

さし  
新阿

さし  
道連

さうぞ世世相とほしくくおき人を  
こころよきなりあけまゐる人 高樹

さきうへなる君さくらもあつて  
らほの油をそめんとおのれ 因子

後らうこころさくらもあつて  
あつてさくらもあつて 舞女

あき入とおき人さくらもあつて  
あつてさくらもあつて 檻風

かたはは汝何れままたとぞまゐる  
おとつて人の親もあつて 山住

用ひこころおき人さくらもあつて  
さくらもあつて 田舎丸

對客閑談不辱親  
立機綾繡耐矜心  
爭知春畹畹米秀  
亡化之抹抹裏塵  
廣深庵

灯をかり奉る

川柳  
三  
比

ゆくさくの南

の茶末のそり  
あられふり  
其雨

み化せのりしと云ふも  
けしめちち世もくみり  
乃同し寸せしるの  
かろしちちちちち  
毎るをせしと云ふも  
んさしせしちちち  
んさしせしちちち

買ふのちちちちち  
そこのせしちちち  
と云ふもくみり  
買ふのちちちちち  
そこのせしちちち  
と云ふもくみり



よのこゝろにゆく人 席とあや  
 ちよとあやのころのれとあや  
 乃あやしふくしてあや  
 こころとあやのころ  
 考あや  
 ぬのころ  
 文化六巳年 結家妙果大姉 十月 日  
 文化七庚午年 花參輝至善男子 三十一日  
 名はあやし堂



宗天輝をいぬ果大姫の子の子とし  
おやのおやを平平とむえしをうけおらひの  
けり免世をまうけりていこしをうけ  
まうま答のつふし取子にたらはぬ神  
まのまをこしとらぬ父の母の取子ま  
いははうりこはわきにり外将とありて  
世をとらぬこがをうらもこもやう取子  
とらぬまをまのまのまをうけらぬ世  
中のたをうけま又いこしをうけし神の思  
はらうをうけまちふに神と人らうち  
らとまをうけい返にまのまをうけらぬ  
帝取まをうけらぬたたらぬまのまを  
言のたまをうけらぬまのまをうけらぬ  
うのお婆大姫のまのまのまのまのま  
鏡ちよ言をうけらぬまのまをうけらぬ  
にまのまのまのまのまのまのまのま  
取まをうけらぬまのまをうけらぬ  
まのまのまのまのまのまのまのま  
又まをうけらぬまのまをうけらぬ  
史のまのまのまのまのまのまのま  
まのまのまのまのまのまのまのま

悼  
子早逝

卷  
卷  
輝  
玉  
何  
欺  
露

掌  
上  
無  
端  
落  
可  
憐

空  
向  
崑  
山  
回  
首  
處

淚  
痕  
化  
雨  
暮  
春  
元

石成氏

松鯉毛

汗

悼  
輝  
玉  
早  
逝  
贈  
勇  
庵  
丈  
人

月巢

秋  
の  
心  
の  
こ  
ろ  
を

獨  
下  
巾  
を  
ま  
の  
こ

必  
巾  
お  
も  
飛

山  
の  
こ  
ろ  
に  
掛

一  
口  
分

秋夜のふりそめさるる  
ふらふらあそび

千裡より来たる  
花のまはるる

月夜に  
月をくらし

おもひ成すや  
あはれの人

あはれや  
あはれ

あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ

婦勇雄凡子以早世

櫻 尔 不 發 遂 蓄 菀

此 又 山 凡 所 今 然

之 毒 子 斗 茲 一 世

晚 春 行 路 獨 泉 泉

大 辭 謙

拜 拜

いこは歌亦人の備

世之るも挿もし世にたよの申の

玉のこもまにたよこは廿九

い若ふて一就棠之桃を席

挑めらるしと心へしるは松人



いふは 何處か 三斗の  
 小差も 出さる 油通  
 へん 是れ 秋の 月  
 毛 秋 鐘 之 人

